

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

加藤 平成五年、八木会長が立ちあげた職場の句会「堀端句会」に顔を出したのがきっかけで俳句を始めました。職場が松山城のお堀端にありましたので、そう呼んでいました。滑稽俳句は、いつの間にかつくるようになっていました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

加藤 これまでにない世界がありますよね。いわゆる従来の俳句にも、川柳にもない深みがあることです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

加藤 人間の温かさですね。川柳は切り口の鋭さが大事ですが、滑稽俳句は皮肉を言っても根底に温かさがあります。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

加藤 人間や自然を観察する目が深くなったように思います。物事への関心の度合いが変わりました。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

加藤 コツがあったら聞きたいですが、観察と言葉の研究でしょうか。表現力をつけるべく、日々、研鑽あるのみですね。

【代表句】

みかん送ればりんごの届き年の暮
合格の電文だつた「サクラサク」
落葉並べて銀行屋さんよ幼子は
ハハの日のハハに濁点付けてみる
宅急便汗の滴も置いて行き